

防災と心のケア 「ひまわりの定植」について

平成26年6月9日月曜日 13:25～15:15

「防災と心のケア」の授業において富島保育所と富島小学生の子供たちと一緒に、「はるかひまわり」の定植作業を行いました。

「はるかひまわり」とは、NPO法人「1.17希望の灯り」が行っている活動で、概略は以下の通りです。

1995年夏、神戸市東灘区の空き地に向日葵が咲きました。そこには、阪神淡路大震災で天国に旅立った小学校6年生のはるかちゃんが住んでいた家がありました。隣の家で飼っていたオウムのエサのヒマワリが、芽を出して花を咲かせたのです。ご近所の人たちが、そのヒマワリを「はるかちゃんひまわり」とはるかちゃんの供養と震災の生き証人としてのヒマワリを育て語り継ぐことにしました。

「はるかひまわり」を育てることにより、子供たちが地元富島地区でも26名の尊い命と町を失った阪神淡路大震災を知り、あの震災を語り継ぐことができると考えました。



本校の生徒達が見本を見せながら定植すると、最初はぎこちなかった子供たちの手つきもだんだん速くなりました。



夏のような日差しの中 300本近くの苗をプランターと花壇に植えました。ヒマワリは社会研究部員で世話をし、7月ごろに花を咲かせる予定です。

はるかちゃんのお姉さんも来てくれて、やはり震災はひどいこともあるけど、このように人との繋がりが生まれることは素晴らしいことだと思いました。

